



サステナブルツーリズムセミナー in Fukuoka
@福岡アジア美術館「あじびホール」

「サステナブルツーリズムと経済の良い関係づくり」



国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務
2023年11月21日

講義の内容



① UNWTO概要・活動紹介

② 持続可能な観光と経済

③ 持続可能な観光における
民間事業者との連携

U N W T O 概要・活動紹介

United Nations World Tourism Organization
国連世界観光機関

UNWTO 紹介



159加盟国及び6地域と
500以上の賛助加盟員から構成
事務局長：ズラブ・ポロリカシュヴィリ

日本の賛助加盟員 22団体：
京都外国語大学他 9 大学、日本政府
観光局(JNTO) 日本旅行業協会等

観光分野における世界最大規模の組織

国連の専門機関(スペイン マドリッド)

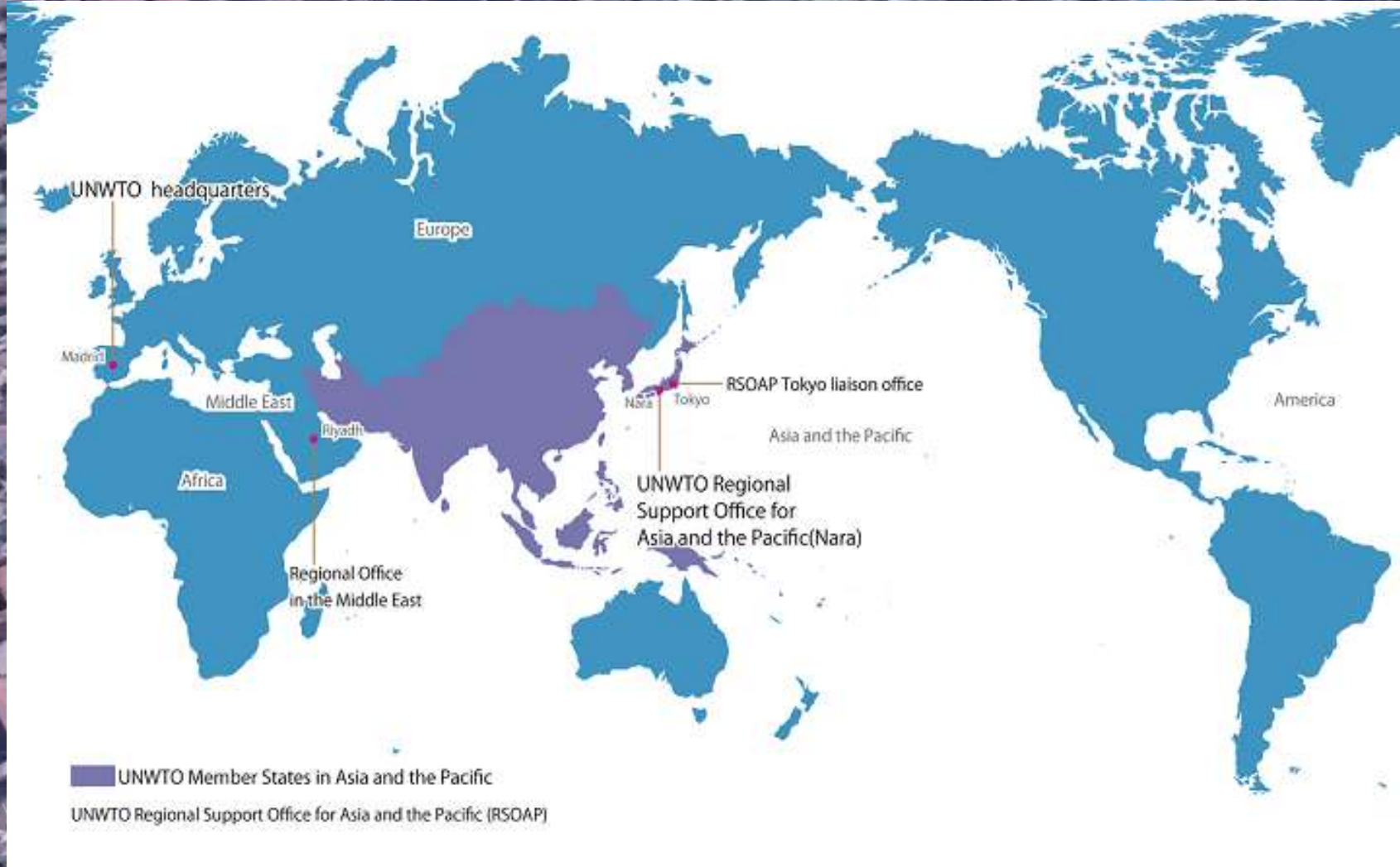
持続可能な観光の促進

観光政策における課題及び実用的な観光
知識の議論の場の提供

世界の観光統計の収集、分析、予測

**UNWTO憲章：
国連世界観光機関の目的を明記**

UNWTO駐日事務所

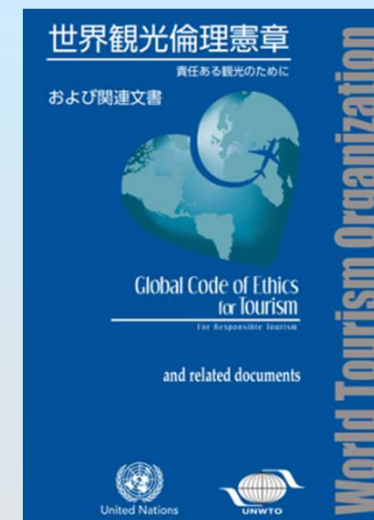


UNWTO 駐日事務所

1995年:UNWTO唯一の地域事務所として設立

観光関連事業者や自治体の支援で運営

アジア太平洋地域の29か国2地域の観光を支援



持続可能な観光地域経営の普及

**パートナーシップの構築
(世界観光倫理憲章の普及)**

- ・観光関連の民間部門に対し、憲章への誓約を促進する活動（誓約署名式）を実施
- ・この憲章への署名により、持続可能な観光を推進するということを大々的にアピールすることが可能

持続可能な観光と経済

「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」を作成

事業趣旨

- ▶ 観光を活用した持続可能な地域経営の、地域での普及促進を図ることを目的に、**地方自治体等向けの「手引き」を作成。**
- ▶ **地方運輸局ブロックセミナー**やシンポジウムも開催し、手引きのブラッシュアップを図るとともに、関係者間のネットワークの構築を行った。



観光を活用した持続可能な地域経営 地方運輸局ブロック別セミナー

【主催】 観光庁、運輸局、国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所、（一財）運輸総合研究所

【主な対象】 自治体、DMO関係者、運輸局職員

セミナー参加者		北海道	東北	北陸	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
参加団体	自治体	33	39	17	21	16	21	16	11	19	7
	DMO	25	31	11	14	11	11	11	11	28	2
	その他	100	47	12	24	14	11	14	10	1	29
	合計	158	117	40	59	41	43	41	32	48	38



運輸局地方ブロックセミナーでのご意見・課題

<北 陸>



新型コロナウイルスの影響で観光事業者が大きな打撃を受けている中で、**短期的な効果が期待できない持続可能は観光に投資する余力がない。**

各事業者サステナブルの取組を行っていかねばならない意識はあるものの、具体的に取組む内容やどこまでやったら良いのかが難しいのではないかと思います。**事業者は利益を出さないといけないので、費用対効果やどのような取組がどれくらいの効果があるのか？**

<北海道>

民間事業者が持続的に「日本版持続可能な観光ガイドライン」に取り組むためには、**取組むことにより集客や収益につながることを示すと理解が深まるように**感じています。



<近 畿>

道路・交通機関・WiFi等のインフラ整備への投資が、**地方都市では自治体の財政上でできていないのが現状であるため、そういった投資を待たずとも、ポジティブな発展を遂げている地方都市の事例を伺いたい。**

観光の効果（経済的な効果や文化の維持・継承など）について、地域住民にとってのわかりやすいデータや効果的な周知方法が不足していると感じる。

- 【実施個所】<2021年>**
- 10月 4日 北海道運輸局
 - 10月 5日 東北運輸局
 - 10月19日 北陸信越運輸局
 - 10月25日 中部運輸局
 - 11月10日 近畿運輸局
 - 11月11日 四国運輸局
 - 11月15日 九州運輸局
 - 11月18日 中国運輸局
 - 11月26日 関東運輸局
 - 12月 3日 沖縄総合事務局

**持続可能な観光と
経済の両立は
無理なのでしょうか？**



持続可能な観光と経済

コロナ禍で大変！

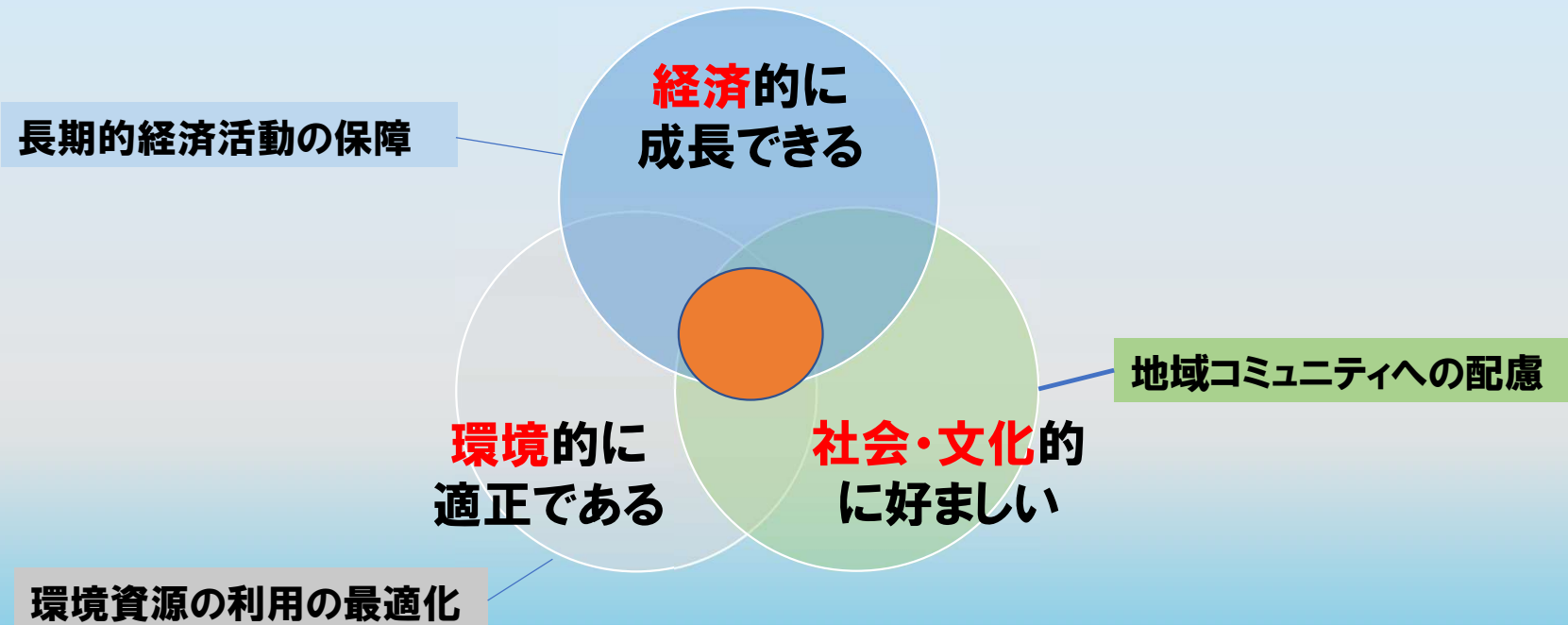
更に持続可能な
観光への取組？

利益につながら
ない事をやる余
裕がない！

もはや持続可能性を念
頭に置かない地域の取
組はあり得ない！



持続可能な観光とは？



【UNWTOの定義】

“旅行者、観光関連産業、自然環境、地域社会の需要を満たしつつ、経済面・社会面・環境面の影響も十分考慮に入れた観光” (UNWTO, 2004)

国内の事例から考える

(一社) 田辺市熊野ツーリズムビューローの例



田辺市熊野ツーリズムビューロー

世界遺産登録直後の苦い経験

1日100台もの観光バス

短い滞在で次の観光地へ

ただの山道でしかない印象

道が荒らされる

古道沿いの植物を採取される

お客様は不満、
地元住民もストレス

持続可能な観光地へ

目的意識を持って旅をする
人たちに「熊野」を伝えたい

ターゲットは欧米豪のFIT

外国人を呼び込むには
外国人の感性が必要



国際観光推進員
Brad Towle
ブラッド トウル

田辺市熊野ツーリズムビューロー

観光戦略の基本スタンス

「ブーム」より「ルーツ」

「乱開発」より「保全・保存」

「マス」より「個人」

世界に開かれた
「上質な観光地」に



受け入れ体制強化

情報発信



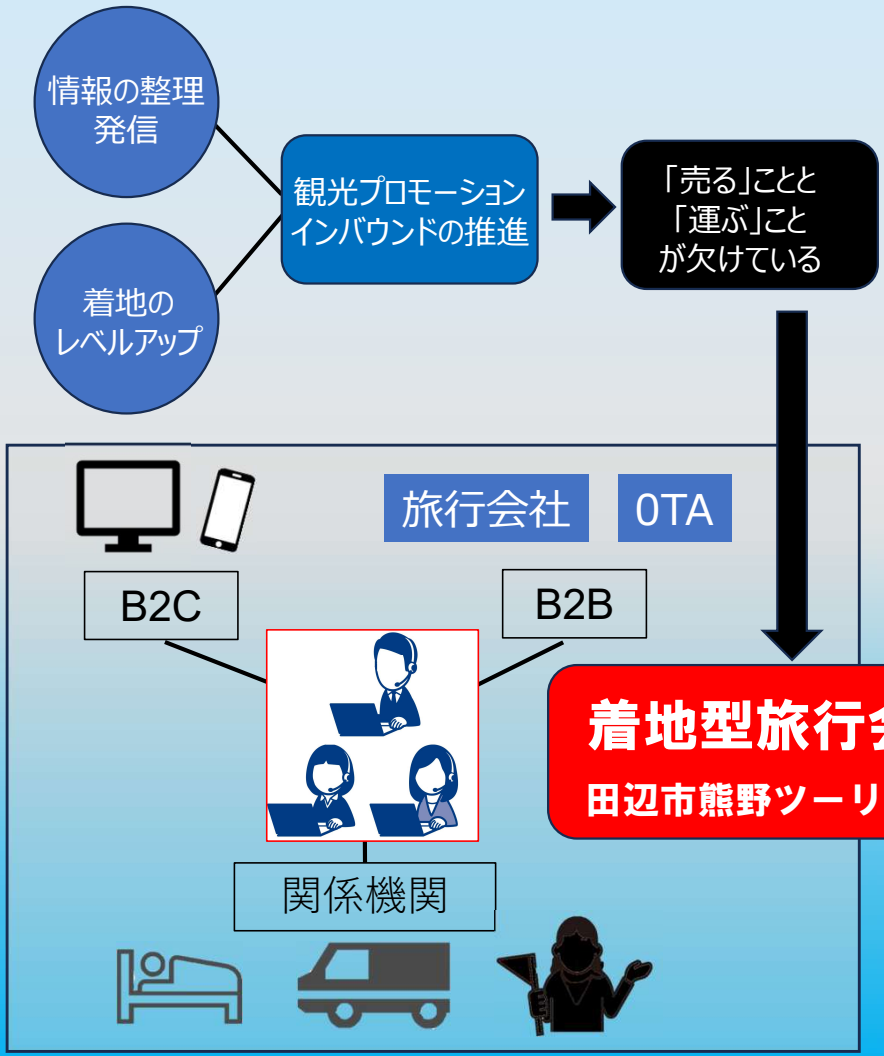
和歌山県「熊野古道」とガリシア州「サンティアゴへの道」が姉妹道提携を締結(1998年)



2021.09までの登録状況

	国籍	人数	男	女
1	オーストラリア	581	216	365
2	アメリカ	404	182	222
3	スペイン	346	194	152
4	台湾	151	54	97
5	イタリア	118	64	54
6	イギリス	115	63	52
7	カナダ	113	50	63
8	中国	105	34	71
9	ドイツ	64	39	25
	合計	1997	896	1101

田辺市熊野ツーリズムビューロー



- 2006年6月 田辺市熊野ツーリズムビューロー設立
- 2010年5月 法人格（一般社団法人）取得
- 2010年7月 第2種旅行業取得
- 2010年10月 着地型旅行業スタート
- 2019年3月 日本版DMOに登録

- 田辺観光協会
- 龍神観光協会
- 中辺路町観光協会
- 大塔観光協会
- 熊野本宮観光協会

田辺市熊野ツーリズムビューロー

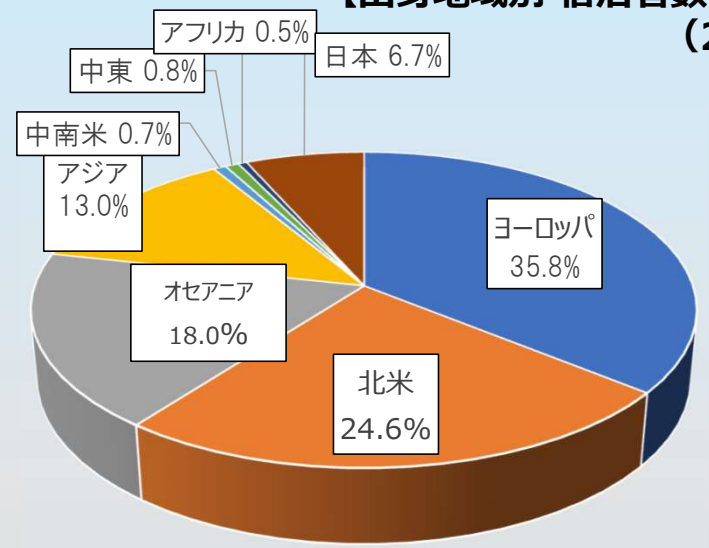
経済面での取組成果

5年で外国人延べ宿泊者数が8倍に

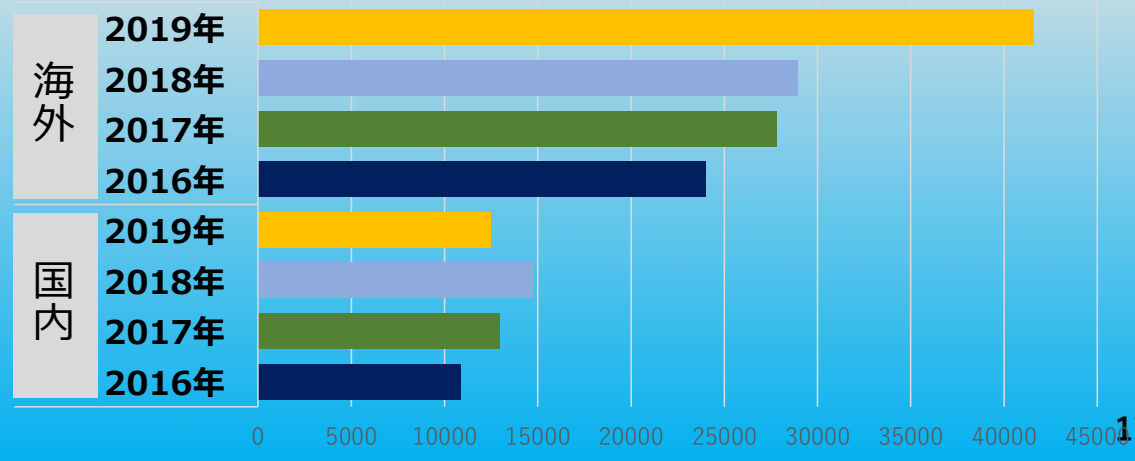
【田辺市外国人宿泊者数】



【出身地域別 宿泊者数の割合 (2019年)】

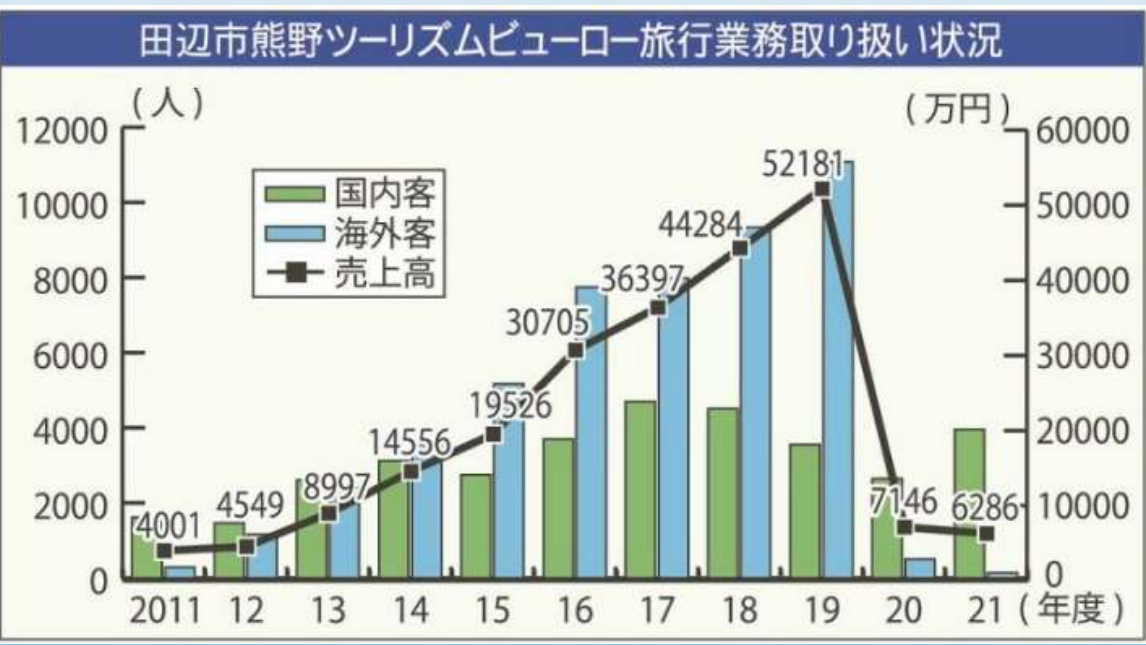


1人あたり平均単価



出所：APTECセミナーでの（一社）田辺市熊野ツーリズムビューロープレゼンテーション資料

田辺市熊野ツーリズムビューロー



出所：2022年7月3日付掲載 紀伊民報より

経済波及効果

需要の減少に伴い廃業の検討をしていた釣り民宿より、外国人観光客が増え民宿業が復活した事を喜ぶ声がでている

荷物輸送という新しいビジネスを始めたことによる雇用の創出

地域の活性化に伴い市民のシビックプライドの向上が図られ、都会から戻ってゲストハウスやカフェを開業する人が現れた



出所：Kumano Travel ホームページ

持続可能な観光における 民間事業者との連携

国内の事例から考える

自治体連携事業の例

認証取得に向けたWG

ワーキング・グループを立ち上げ、持続可能な観光地としての目標設定やモニタリングを実施する。大阪・関西万博に向け世界に認められる認証取得を目指す。

2023年

ワーキング・グループ設置

モニタリング項目決定

目指すべき認証ラベルの選定

試験的モニタリング

【予定】

2024年

協力事業者選定

事業者モニタリング

協力事業者公表

世界認証取得

2025年



世界認証取得結果公表

大阪・関西万博にあわせた広報

広報イベント

モニタリング継続

持続可能な観光に関する国際基準



グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会（GSTC）

持続可能な旅行及び観光のためのグローバルスタンダードであるGSTC基準を制定、管理する国際非営利団体（米国で登録）。持続可能な観光の認証機関に対する認定も実施している。

<指標開発の背景>

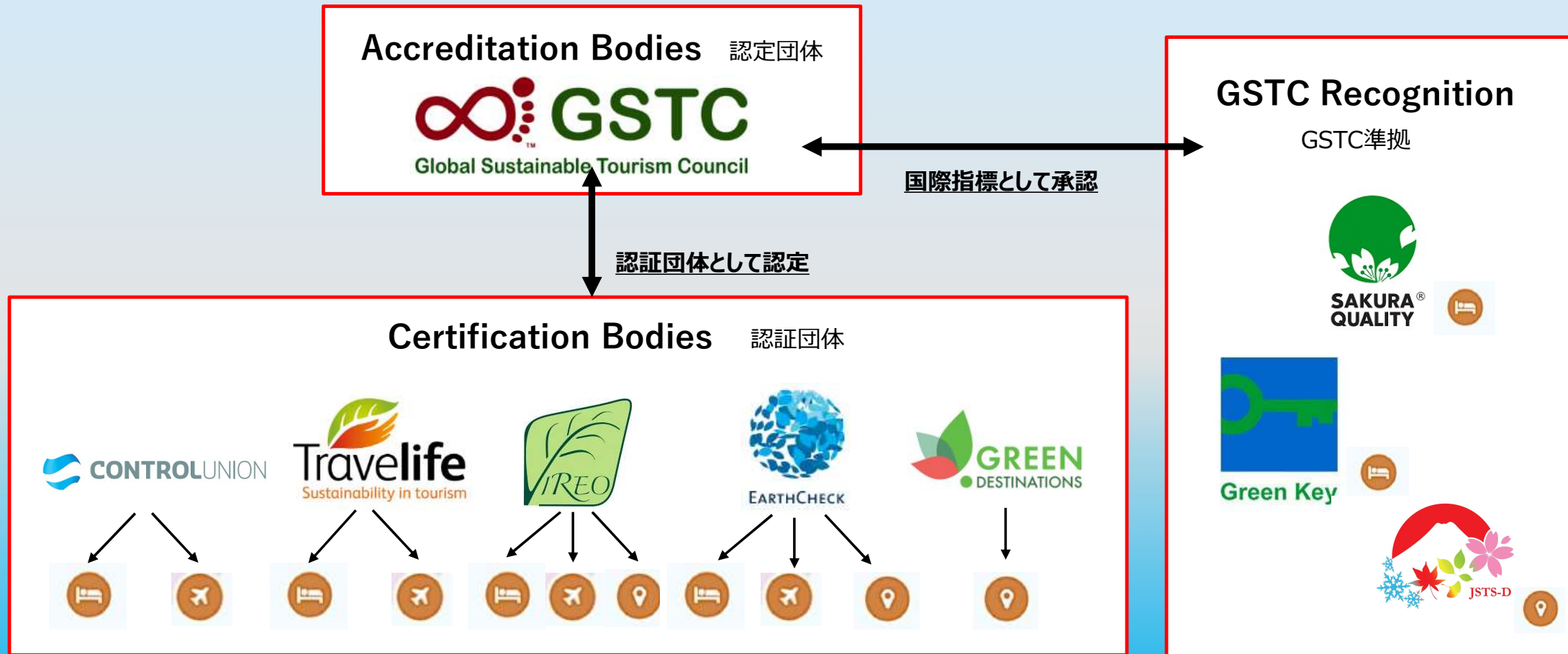
レインフォレスト・アライアンス、UNEP、UNWTO、UN財団が発起人となり、民間のパートナーと2007年に組織を結成。

世界的に認められた普遍的な基準の策定を通じて、持続可能な観光の共通言語を標準化することとした。既存の60以上の認証や自主的な基準を検討し、4500以上の基準を分析し、8万人以上の各分野の専門家の意見を踏まえて基準を策定。

<指標開発の沿革>

- 2007年 持続可能な観光の推進と持続可能な観光の国際基準を作ることを目的にGSTC発足
- 2008年 **観光産業**（宿泊施設、ツアーオペレーター）向けの指標（**GSTC-I**）開発
- 2013年 **観光地**（デスティネーション）向けの指標（GSTC-D）開発
- 2019年 **観光地**（デスティネーション）向けの指標（GSTC-D Ver.2.0）開発

持続可能な観光に関する認証制度



<認証カテゴリー>  宿泊施設  ツアーオペレーター  デスティネーション

指標に基づいたモニタリング

岐阜県



INSTO

World Tourism Organization
International Network
of Sustainable Tourism
Observatories

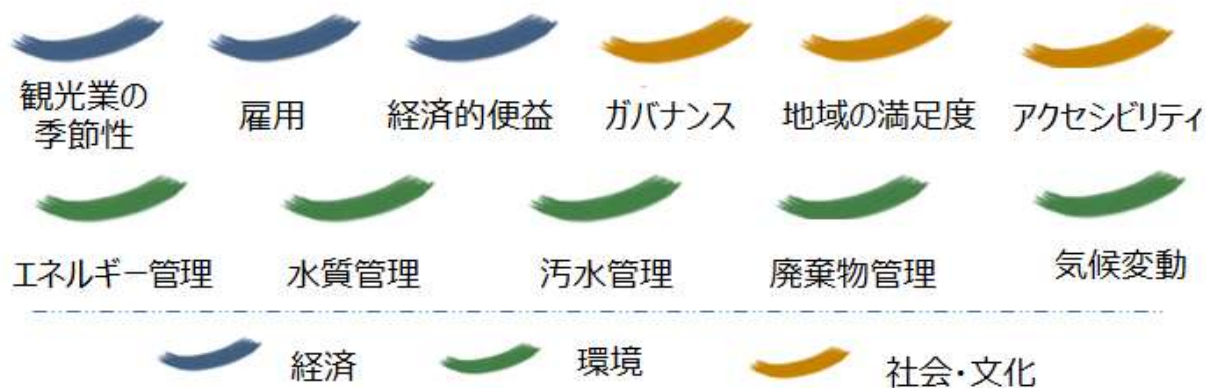
観光地単位で持続可能な観光の発展を
指標に基づいてモニタリングを行う観光地の
ネットワーク（現在世界で39箇所）

- ① **参加型アプローチ**：地域の関係者が共通の価値と認識を共有し、取組を継続するために、地域の関係者による協議会（ワーキンググループ）を組成すること
- ② **モニタリング**：「経済」、「環境」、「社会・文化」の3分野について11の項目に関する指標を設定し、継続的にモニタリングを行うこと
- ③ **レポートと情報共有**：毎年関係者によるワークショップを開催し、進捗状況を共有すること

【構成例】



【指標】



指標に基づいたモニタリング

INSTOの海外事例

南チロル（イタリア）



南チロル（イタリア）

背景 南チロルの観光客数が増加しており、今後の対応について検討することの重要性を地域の観光事業者が認識し始めていた

- ・ 持続可能な観光に関する研究で先行
- ・ 地域データの収集に特化した専門機関の必要性を認識

Eurac Research

Innovation Development
Marketing (IDM)

連携

地域マーケティング組織

【地域課題】

- ・ 「事業の質的向上」「価格の引き上げ」
「サービスの品質向上」
- ・ 自然環境の保全、特に水源の重要性

2018年にINSTOに加盟

Sustainable Tourism
Observatory of South Tyrol
(STSOT)

Stakeholder
Working
Group
SWG

州統計局

商工会議所

地域の大学

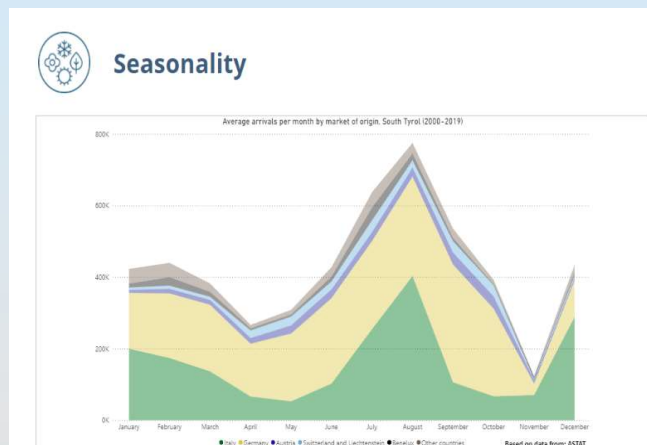
地域の研究機関

地域の業界団体

など

南チロル（イタリア）

【経済】



1. 月ごとの観光客到着数
2. 客室稼働率
3. 宿泊・外食セクターで雇用されている地域住民の数

【環境】



1. スノーガン使用時の水の消費量
2. スキーリフト及び人工降雪機による電力消費額
3. 人間活動が生態系に与える環境負荷

【社会・文化】



1. 観光客による混雑の度合い
2. デスティネーションにおける家賃相場
3. 価格に対する観光客の満足度

課題に対して指標を設定してモニタリングすることにより、観光振興による水・エネルギーの利用と交通システムといった地域特有の課題、景観保全の微妙なバランスを追求することが可能となった。

まとめ

- 1. 持続可能な観光と経済は両立する**
- 2. 経済、環境、社会・文化のバランスが重要**
- 3. それぞれの進捗チェックには指標を活用**
- 4. 取組を進めるには官民学の連携が必要**

ご清聴ありがとうございました



UNWTO駐日事務所 和泉 宏明
info@unwto-ap.org